

火災が発生したら

→ 火災発生時の行動と判断

→ 消火器の使い方

状況別行動ガイド

→ 知らせる

→ 避難する

→ 初期消火

→ 火災予防のポイント

火災発生時の行動と判断



消火器の使い方

1. 安全ピンをひっぱるように抜く
2. ホースを外してノズルを火元に向ける(有効距離は約3m)
3. レバーを強く握って消火剤を放射する

状況別行動ガイド

知らせる

- 「火事だ!」と大声を出して、まわりの人や近所に知らせ助けを求めます。声が出ない時はなべを叩くなどして大きな音を出しましょう。
- 非常ベルがあれば使用。小さな火事でも、ただちに119番通報を。
119番は落ち着いて
火災現場の位置と目標を正しくはっきりと伝えます。
例)「火事です。北区衣笠立命館大学です」「大学の西側の〇〇が燃えています」

初期消火

- 判断のポイント
出火から3分以内、炎が天井に燃え移る前ならば消火できる可能性あり。瞬時に判断し、落ち着いてすばやい行動を。消火が困難と判断したら、すみやかに避難しましょう。
- 消火する時の注意点
消火器があれば使用し、火元に向けて噴射するのがいちばん。手元がない場合の消火方法は以下のとおりです。

電化製品	まずコードをコンセントから抜き、余裕があればブレーカーを切ってから消火。いきなり水をかけると感電の危険が。
石油ストーブ	毛布などをかぶせ、バケツの水を真上から一気にかける。
タバコ	火を消したつもりでも、数時間経って燃えだす無煙燃焼(燻焼)の危険あり。広範囲に水をかけること。
油なべ	なべに合うふたを手前から向こうにかぶせ、ガス栓を締める。シーツなど大きめの布を水に濡らし、かたくしぼってなべ全体を覆いガス栓を締める。 ※いずれの場合も温度が完全に下がるまでふたや布をとらない。
カーテンやふすま	ひきちぎる、けり倒すなどして火元から遠ざけた上で消火する。
衣服	地面などで転がりまわって火を消す。風呂場のそばにいる場合は浴槽の水をかぶるか浴槽に飛び込む。

避難する

消火不可能と判断したら、タイミングを逃さずすぐに避難を。

- 安全な避難のポイント[押すな・走るな・しゃべるな・戻るな]
 - 服装や持ち物等にこだわらず、すばやく避難する。
 - 避難は、お年寄り、子ども、病人を優先する。
 - 一度避難したら、二度と建物の中には戻らない。
 - 逃げ遅れた人がいる場合は、すぐに消防隊員に知らせる。
- もしも煙に巻かれたら
煙には有毒ガスが大量に含まれていて、吸い込むと昏倒してしまいます。消火活動の時も煙の様子には十分な注意を。避難時には、煙を吸い込まないようタオルなどを口と鼻にあてて床面に顔を近づけ、はって脱出しましょう。呼吸は鼻から吸って口から吐くこと。
※煙の拡がる速さは、水平方向では毎秒約0.5メートルですが、垂直方向(上方)へは毎秒3メートル~5メートルにもなります。垂直方向では人が歩く速度よりも速いため、階段等では特に注意が必要です。
- 火災時の避難場所
火災が風上300m・風横150m・風下100mまで迫ったら速やかに退避を開始。状況を見ながら、安全な場所を通って避難すること。日頃からキャンパス内の各基準距離の目標物を確認しておく。

火災予防のポイント

電化製品	タコ足配線をしなない、コードの上に重いものを置かない、プラグの発熱に注意、電気器具の使用後はプラグを抜く。
ストーブ	点火後炎の調節をする、まわりに燃えやすいものを置かない、つけたまま寝ない、火をつけたまま給油しない。
タバコ	灰皿の始末には要注意、寝タバコ厳禁。
コンロ	火をつけたまま目を離さない、天ぷら油の引火に注意。
たき火、花火	そばに水を用意し、終わったらしっかりと消火する。
放火	ゴミは収集日の朝に出し、家のまわりに燃えやすいものを置かない。